

早稲田大学 国際教養学部 国語(現代文) 講評

(総合分析)

出題形式	全問マーク式
試験時間	60分(現代文2問、古文1問)

(大問別講評)

(一) 小説文。出典：二葉亭四迷『平凡』。

(本文字数：約 2200 字 = 昨年より約 200 字減少。設問数：7 = 昨年と同じ)

小問	難易度	コメント
問一	標準	【語句の意味】前後の文脈から判断する。
問二	やや難	【心情把握】エが紛らわしいが、前後の文脈から判断する。
問三	やや難	【心情把握】イが紛らわしいが、「なじる」は言いすぎである。
問四	やや易	【心情把握】傍線部3の直前の「何だか気の毒らしくて」と、その後の行動から判断する。
問五	易	【せりふ補充】空欄の前後の文脈からたやすく判断できる。
問六	易	【人物評価語補充】「歌、三味線」についてのお糸さんについて書かれた箇所を探す。
問七	やや易	【心情把握】傍線部4を含む段落全体から判断する。

(二) 評論文。科学論。出典：福岡伸一『生物と無生物のあいだ』。

(本文字数：約 2200 字 = 昨年より約 400 字減少。設問数：7 = 昨年より2問増加)

小問	難易度	コメント
問八	易	【漢字】3題。同音異字には普段から注意する。
問九・a	やや易	【接続語補充】前後の内容から容易に判断できる。
問九・b	標準	【接続語補充】単なる「並立・選択」ではなく、「言い換え」である。
問九・c	やや易	【接続語補充】前後の内容から容易に判断できる。
問十	標準	【空欄補充】空欄 を含む段落の話題は何かから判断する。エでは広すぎる。
問十一	やや易	【傍線部説明】「固唾を呑んで」の慣用句の意味を知っていれば容易である。
問十二	標準	【空欄補充】直前の「もちろん」と、直後の内容から譲歩文と分かる。
問十三	やや易	【空欄補充】直前に時間の流れが述べられていることに着目する。
問十四	標準	【論旨把握】「つまり」から始まる文末の一文から判断する。

(総合コメント・今後の指針)

<p>大問一は、三年連続で小説が出題された。昨年と比べると難易度は易化しているものの、紛らわしい選択肢も多いので、ふだんから小説の対策をしていないと苦戦を強いられるであろう。小説の対策の第一歩として、センター試験の過去問などを用いて問題慣れしておくといよい。</p> <p>大問二は、科学論が出題された。科学論は、多くの高校の教科書や予備校のテキストで取り上げられている頻出テーマなので、抵抗なく読めた受験生が多かったのではないだろうか。ふだんから高校や予備校の授業で扱われる評論文をテーマという観点でもとらえておくといよい。</p>

早稲田大学 国際教養学部 国語(古典) 講評

(総合分析)

出題形式	全問マーク式
試験時間	60分(現代文2問、古文1問)

(大問別講評)

(三) 古文。出典：『今昔物語集』

(本文字数：約 900 字 = 昨年より約 150 字減少。設問数：7 = 昨年と同じ)

小問	難易度	コメント
問十五	易	【文脈把握】冒頭の一文から容易に解ける。
問十六	やや易	【主語判定】傍線部6は「つわものだちたる者」の動作。他は「翁」の動作。
問十七	標準	【整序問題】「.....にやあらむ」という表現に慣れているかどうかで決まる。
問十八	やや易	【文脈把握】直前の文脈から考えれば容易。
問十九	やや易	【文脈把握】前後の文脈から考えれば容易。
問二十	易	【文法問題】格助詞「の」の同格の用法が問われている。
問二十一	易	【文脈把握】前後の文脈から考えれば容易。

(総合コメント・今後の指針)

大問三の古文は例年通り容易であった。本学部の古文は、基本をきちんと身につけていれば確実に高得点が狙える。単語と文法を覚えつつ、省略されている語句を補いながらじっくりと読む、という練習を続ければよい。